

地域おこし協力隊の活動日記

飛騨市内で活動している地域おこし協力隊。市内に存在するさまざまな地域資源を活用し、地域の特徴を活かした産業の創出を図ります。



地域の資源を活用したものづくり
隊員 森口 明子

飛騨市地域おこし協力隊の森口明子です。東京から移り住み、早一年半が経ちます。飛騨の圧倒的な山の存在や空気や水、そして何よりひとが大好きです。忙しい毎日の中で飛騨の皆様との関係性が築けていないのが不甲斐なく、もっと皆様と親しくなって自然を楽しむ遊び方や、衣食住、何かと手づくりで暮らす生活を目標としています。

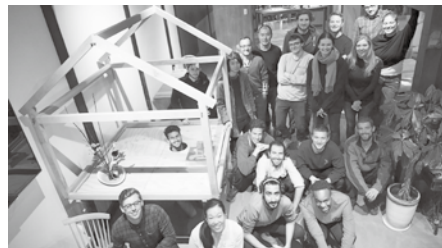
飛騨の良さを伝える『ヒダクマ秋祭り』

(株)飛騨の森でクマは踊る(通称ヒダクマ)では、より多くの皆様に飛騨の魅力を知っていただくため、今年も10月に『ヒダクマ秋祭り2016』を開催しました。プログラムは2日間にわたり、森に親しみを持ってもらうための森歩きや、木工と木工を活用したものづくりワークショップ、森の素材や地酒を使ったアルコールワークショップやアロマづくり、広葉樹チップを使った燻製フード、江戸時代から続く蔵でライブパフォーマンスを行いました。



飛騨へ建築提案『キングストン大学の合宿』

11月4日から9日までの5日間、英国のキングストン大学で建築を学ぶ学生・講師30名を飛騨に迎え、建築材として重要な木について学び、試作品を作る短期合宿を行いました。森での施業現場や板倉づくりの種蔵集落、柚職人・荒木昌平さんのハツリ技術見学、田中建築さんの工場で即興家づくりのデモ見学、高山と飛騨古川の街並みを歩き、匠文化館で組木を学び、西野製材で加工を知りました。そして華道の授業を西村さん、古川町案内を鮎飛さん、古川に流れる水の歴史を竹林きよ子さんに教えていただきました。3日間の濃い学びを終え、残り1日でFabCafe hidaの木工機材やFab機材を使い、試作品を製作。試作品は来年3月に建築家の藤森照信氏と造る茶室の試作と飛騨への提案を掛け合わせたもの。そして釘をできるだけ使わず、組木の機能を活用した移動式茶室屋台が完成。今後もちょうした合宿を続け、世界中の多くの方に飛騨の美しさや伝統技術、職人魂、美味しい水や空気を味わっていただきたいと思っています。



東京でも体験できる飛騨『FabCafe Tokyo 飛騨ジャック』

11月20日、FabCafe hidaのメンバーが渋谷にあるFabCafe Tokyoへ出向き、飛騨尽くしのコンテンツを提供しました。飛騨の広葉樹で箸づくりワークショップ、飛騨牛朴葉味噌やみたらし団子、飛騨の山で採集した素材と地酒を合わせたアルコールメニュー、FabCafeでデザイナー達と開発した商品の展示、広葉樹を使ったカッティングボードやアロマ製品の販売などを行いました。



ご協力、ご協賛いただいた飛騨の皆様、誠にありがとうございました。今後もし引き続き飛騨の良さを伝える活動を続けていきますので、ご指導、ご鞭撻をお願いいたします。なお、今回の活動の詳細はウェブサイトのブログでご覧いただけます。

<http://fabcafe.com/hida/blog/>
<https://hidakuma.com/blog/>